



発行所
公益財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 岸 谷 義 雄
題字 井 戸 知 事

令和元年度 日本消防協会 定例表彰

無事故への
構え一分の
隙も無く

令和元年度日本消防協会定例表彰は、令和二年三月三日に表彰式が執り行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症対策本部において「新型コロナウイルス対策の基本方針」が決定されたことを踏まえ、延期されることとなりました。

○表彰旗(一団)
稲美町消防団

- 竿頭級(三団)
- 小野市消防団 市川町消防団 姫路市香寺町消防団
 - 副団長 藤原 和則
- 功績章(四一名)
- 神戸市北消防団 副団長 松本 安廣
 - 神戸市須磨消防団 副団長 元部 雅由
 - 神戸市西消防団 副団長 二星 晴喜
 - 姫路市飾磨消防団 副団長 正木 敏博
 - 分団長 丹波篠山市消防団 副団長 月森 一延
 - 養父市消防団 副団長 田中 慎二
 - 丹波市消防団 副団長 園田 哲也

- 明石市消防団 分団長 岩崎 弘
- 西宮市消防団 分団長 森畑 春弥
- 洲本市消防団 副団長 山本 勝利
- 芦屋市消防団 副分団長 池本 泰宏
- 伊丹市消防団 副分団長 水原 雅和
- 相生市消防団 副団長 池田 勲
- 豊岡市城崎消防団 副団長 岸田 政則
- 加古川市消防団 副団長 糟谷 昌吾
- 赤穂市消防団 分団長 島津 和正
- 西脇市消防団 分団長 上田 芳宏
- 宝塚市消防団 副団長 松田 真
- 三木市消防団 副団長 藤原 和則
- 高砂市消防団 副団長 砂川 秀一
- 川西市消防団 分団長 中西 貞
- 小野市消防団 分団長 石井 祥悟
- 三田市消防団 分団長 大田 賢章
- 加西市消防団 副団長 甘中 直樹
- 丹波篠山市消防団 副団長 片山 康博
- 下浦 康宏
- 田中 靖之
- 福井 功一
- 榎原耕一郎

- 精績章(九九名)
- 南あわじ市消防団 副団長 阪本 彰宏
 - 朝来市消防団 副団長 平野 光啓
 - 淡路市消防団 副団長 中野 大
 - 宍粟市消防団 副団長 植木 政夫
 - たつの市消防団 副団長 田口 博文
 - 加東市消防団 分団長 山本 直樹
 - 猪名川町消防団 副分団長 八瀬林昌雄
 - 多可町消防団 副分団長 井上 貴之
 - 稲美町消防団 副分団長 小中 一弘
 - 福崎町消防団 副分団長 城谷 博紀
 - 太子町消防団 副分団長 八幡 陽介
 - 上郡町消防団 副分団長 壽賀 勇
 - 佐用町消防団 副分団長 平田 琢也
 - 新温泉町消防団 副分団長 西村 亨
 - 豊岡市豊岡消防団 副分団長 岡谷智恵子
 - 神戸市東灘消防団 副分団長 梶原 修
 - 神戸市灘消防団 副分団長 森藤 良治
 - 神戸市中央消防団 副分団長 川邊 良一
 - 神戸市兵庫消防団 副分団長 畑尾 和江
 - 神戸市北消防団 副分団長 片山 康博
 - 下浦 康宏
 - 田中 靖之
 - 福井 功一
 - 榎原耕一郎

- 姫路市姫路東消防団 分団長 後藤 龍哉
- 松本 孝明
- 三輪 昌弘
- 北村 秀昭
- 古橋 建夫
- 三木 壽康
- 田中 鉄治
- 山口 由美
- 宮本 章彦
- 伊藤 能之
- 高井 正則
- 木挽 芳治
- 山本 英夫
- 横道 弘成
- 江本 力也
- 西川 健吾
- 溝口 博行
- 堀内 邦彦
- 松下 達雄
- 米田 弘司
- 中嶋 邦和
- 上坂 泰三
- 稲岡 正樹
- 井上 和幸
- 織田 浩光
- 川崎 修一
- 高瀬 有悟
- 大石 義治
- 西田 勝

- 三木市消防団 班長 十都 和弘
- 岡田 昌幸
- 赤松 慎一
- 小川 成人
- 原 利昭
- 水口 武
- 森 忠洋
- 山田奈代美
- 番庄 和弘
- 横山 博
- 小田 信行
- 月森 一延
- 田中 晋
- 谷掛 和人
- 中尾 貴幸
- 田村 康裕
- 山本 哲生
- 酒井 誠
- 細見 浩夫
- 青木 則明
- 飯田 英生
- 丸井 貴文
- 坂本 隆志
- 白瀬 暁之
- 山下 真也
- 木下 裕道
- 小南 美佳
- 足立 勝
- 坂本 和昭
- 石田 千晴
- 小松 和夫
- 山口 吉郎
- 中瀬 芳明
- 三木 秀章
- 林 克年

- 勤続章(二九〇名)
- たつの市消防団 副団長 宗接 徹
 - 須貝 有朋
 - 石原 寛大
 - 瀧本 高久
 - 村上 重幸
 - 宮野武比古
 - 谷上 英樹
 - 奥中 章生
 - 宮脇 明人
 - 藏本 栄伸
 - 廣畑 長昌
 - 平田 則和
 - 森井 省司
 - 魚住 信彦
 - 多田 洋平
 - 浅井 信人
 - 田中 雅也
 - 藤原 哲彦
 - 矢田 正博
 - 香嶋 昭仁
 - 横田 聖
 - 小林 康幸
 - 小林 友行
 - 大林 一樹
 - 中村 行男
 - 神戸市東灘消防団 分団長 小林 元彦
 - 副分団長 井場 幸治

(次ページに続く)

神戸市灘消防団	副団長	今井 敏彦	団員	松田 憲和	神戸市西消防団	分団長	脇 喜久次	団員	小南 勝紀	尼崎市消防団	分団長	寺田 純一	団員	浅田 勝彦	
分団長	中山 重行	神戸市長田消防団	分団長	西田 幸弘	分団長	中谷 文昭	団員	村田 博嗣	分団長	中谷 文昭	分団長	北島 孝治	団員	竹平 和正	
班長	尾形 洋平	神戸市中央消防団	分団長	後藤 安啓	分団長	北島 孝治	分団長	北島 孝治	分団長	北島 孝治	分団長	北島 孝治	分団長	北島 孝治	
分団長	片山 泰造	分団長	延藤 安啓	分団長	北井 稔洋	分団長	北井 稔洋	分団長	北井 稔洋	分団長	北井 稔洋	分団長	北井 稔洋	分団長	北井 稔洋
班長	西村 哲	神戸市兵庫消防団	分団長	北井 稔洋	分団長	北井 稔洋	分団長	北井 稔洋	分団長	北井 稔洋	分団長	北井 稔洋	分団長	北井 稔洋	
分団長	西浦 史和	神戸市北消防団	分団長	北井 稔洋	分団長	北井 稔洋	分団長	北井 稔洋	分団長	北井 稔洋	分団長	北井 稔洋	分団長	北井 稔洋	
副分団長	室田 能一	副分団長	室田 能一	副分団長	室田 能一	副分団長	室田 能一	副分団長	室田 能一	副分団長	室田 能一	副分団長	室田 能一	副分団長	室田 能一
班長	川上 充芳	班長	川上 充芳	班長	川上 充芳	班長	川上 充芳	班長	川上 充芳	班長	川上 充芳	班長	川上 充芳	班長	川上 充芳
副分団長	金出 公仁	副分団長	金出 公仁	副分団長	金出 公仁	副分団長	金出 公仁	副分団長	金出 公仁	副分団長	金出 公仁	副分団長	金出 公仁	副分団長	金出 公仁
班長	鶴田 佳伸	班長	鶴田 佳伸	班長	鶴田 佳伸	班長	鶴田 佳伸	班長	鶴田 佳伸	班長	鶴田 佳伸	班長	鶴田 佳伸	班長	鶴田 佳伸
副分団長	西木 康雄	副分団長	西木 康雄	副分団長	西木 康雄	副分団長	西木 康雄	副分団長	西木 康雄	副分団長	西木 康雄	副分団長	西木 康雄	副分団長	西木 康雄
班長	上岡 和弘	班長	上岡 和弘	班長	上岡 和弘	班長	上岡 和弘	班長	上岡 和弘	班長	上岡 和弘	班長	上岡 和弘	班長	上岡 和弘
副分団長	中谷 栄造	副分団長	中谷 栄造	副分団長	中谷 栄造	副分団長	中谷 栄造	副分団長	中谷 栄造	副分団長	中谷 栄造	副分団長	中谷 栄造	副分団長	中谷 栄造
班長	吉村 研一	班長	吉村 研一	班長	吉村 研一	班長	吉村 研一	班長	吉村 研一	班長	吉村 研一	班長	吉村 研一	班長	吉村 研一
副分団長	田中 操	副分団長	田中 操	副分団長	田中 操	副分団長	田中 操	副分団長	田中 操	副分団長	田中 操	副分団長	田中 操	副分団長	田中 操
班長	小南 勝	班長	小南 勝	班長	小南 勝	班長	小南 勝	班長	小南 勝	班長	小南 勝	班長	小南 勝	班長	小南 勝
副分団長	大前 孝幸	副分団長	大前 孝幸	副分団長	大前 孝幸	副分団長	大前 孝幸	副分団長	大前 孝幸	副分団長	大前 孝幸	副分団長	大前 孝幸	副分団長	大前 孝幸
班長	横山 博之	班長	横山 博之	班長	横山 博之	班長	横山 博之	班長	横山 博之	班長	横山 博之	班長	横山 博之	班長	横山 博之
副分団長	金久 豊	副分団長	金久 豊	副分団長	金久 豊	副分団長	金久 豊	副分団長	金久 豊	副分団長	金久 豊	副分団長	金久 豊	副分団長	金久 豊
班長	藤田 耕治	班長	藤田 耕治	班長	藤田 耕治	班長	藤田 耕治	班長	藤田 耕治	班長	藤田 耕治	班長	藤田 耕治	班長	藤田 耕治
副分団長	丸山 博徳	副分団長	丸山 博徳	副分団長	丸山 博徳	副分団長	丸山 博徳	副分団長	丸山 博徳	副分団長	丸山 博徳	副分団長	丸山 博徳	副分団長	丸山 博徳
班長	東本 明博	班長	東本 明博	班長	東本 明博	班長	東本 明博	班長	東本 明博	班長	東本 明博	班長	東本 明博	班長	東本 明博
副分団長	藤本 和宏	副分団長	藤本 和宏	副分団長	藤本 和宏	副分団長	藤本 和宏	副分団長	藤本 和宏	副分団長	藤本 和宏	副分団長	藤本 和宏	副分団長	藤本 和宏
班長	美除 英和	班長	美除 英和	班長	美除 英和	班長	美除 英和	班長	美除 英和	班長	美除 英和	班長	美除 英和	班長	美除 英和
副分団長	福田 幹生	副分団長	福田 幹生	副分団長	福田 幹生	副分団長	福田 幹生	副分団長	福田 幹生	副分団長	福田 幹生	副分団長	福田 幹生	副分団長	福田 幹生
班長	辻井 宏治	班長	辻井 宏治	班長	辻井 宏治	班長	辻井 宏治	班長	辻井 宏治	班長	辻井 宏治	班長	辻井 宏治	班長	辻井 宏治
副分団長	血池 宣広	副分団長	血池 宣広	副分団長	血池 宣広	副分団長	血池 宣広	副分団長	血池 宣広	副分団長	血池 宣広	副分団長	血池 宣広	副分団長	血池 宣広
班長	和田 章夫	班長	和田 章夫	班長	和田 章夫	班長	和田 章夫	班長	和田 章夫	班長	和田 章夫	班長	和田 章夫	班長	和田 章夫
副分団長	木下 由之	副分団長	木下 由之	副分団長	木下 由之	副分団長	木下 由之	副分団長	木下 由之	副分団長	木下 由之	副分団長	木下 由之	副分団長	木下 由之
班長	山下 貞夫	班長	山下 貞夫	班長	山下 貞夫	班長	山下 貞夫	班長	山下 貞夫	班長	山下 貞夫	班長	山下 貞夫	班長	山下 貞夫
副分団長	下浦 利章	副分団長	下浦 利章	副分団長	下浦 利章	副分団長	下浦 利章	副分団長	下浦 利章	副分団長	下浦 利章	副分団長	下浦 利章	副分団長	下浦 利章
班長	東 嘉宏	班長	東 嘉宏	班長	東 嘉宏	班長	東 嘉宏	班長	東 嘉宏	班長	東 嘉宏	班長	東 嘉宏	班長	東 嘉宏
副分団長	大田 富雄	副分団長	大田 富雄	副分団長	大田 富雄	副分団長	大田 富雄	副分団長	大田 富雄	副分団長	大田 富雄	副分団長	大田 富雄	副分団長	大田 富雄
班長	中面 信一	班長	中面 信一	班長	中面 信一	班長	中面 信一	班長	中面 信一	班長	中面 信一	班長	中面 信一	班長	中面 信一
副分団長	酒井喜久夫	副分団長	酒井喜久夫	副分団長	酒井喜久夫	副分団長	酒井喜久夫	副分団長	酒井喜久夫	副分団長	酒井喜久夫	副分団長	酒井喜久夫	副分団長	酒井喜久夫
班長	東 保己	班長	東 保己	班長	東 保己	班長	東 保己	班長	東 保己	班長	東 保己	班長	東 保己	班長	東 保己
副分団長	亀井 真澄	副分団長	亀井 真澄	副分団長	亀井 真澄	副分団長	亀井 真澄	副分団長	亀井 真澄	副分団長	亀井 真澄	副分団長	亀井 真澄	副分団長	亀井 真澄



令和元年度消防庁長官表彰

県下三消防機関 一四六名が受章

令和二年二月二一日(金)、令和元年度消防功労者消防庁長官表彰が発令されました。県内では一四六名の消防職・団員等の皆様が受章されました。受章者の皆様、この度の栄えあるご受賞、誠にありがとうございます。

また本表彰は、令和二年三月四日(水)に表彰式を執り行う予定でしたが、「新型コロナウイルスの基本方針」を受け、中止となりました。

県下の受章機関、受章者は次のとおりです。(敬称略・名簿順)

○表彰旗

神戸市東灘消防団

○竿頭綬

高砂市消防団
加東市消防団

○功労章 一八名

尼崎市消防局 赤川 孝平
消防正監
神戸市消防局 奥村 芳彦
消防監
神戸市消防局 金原 克司
消防監
尼崎市消防局 川邊 達也
消防監
神戸市消防局 濱田 宗徳
消防監
伊丹市消防局 福井 浩次
消防監
宝塚市消防本部 山中 毅
消防監

○永年勤続功労章 一二四名

姫路市消防局 石原 浩二
消防監
西はりま消防本部 内海 武彦
消防監
加古川市消防本部 竹田 隆幸
消防監
姫路市消防局 堀 博文
消防監
川西市消防本部 石倉 和也
消防司令長
明石市消防局 井上 博樹
消防司令長
西はりま消防本部 井上 仁
消防司令長
北はりま消防組合 岡田 堅三
消防司令長

赤穂市消防本部 尾崎 浩司
消防司令長
神戸市消防局 川脇 隆志
消防司令長
芦屋市消防本部 北村 修一
消防司令長
明石市消防局 後藤 素之
消防司令長
伊丹市消防局 阪上 靖
消防司令長
北はりま消防組合 重本 嘉之
消防司令長
尼崎市消防局 高田 浩二
消防司令長
加古川市消防本部 高橋 淳
消防司令長
豊岡市消防本部 中古谷康彦
消防司令長
神戸市消防局 中谷 明美
消防司令長
神戸市消防局 長野 敏也
消防司令長
姫路市消防局 福永 俊樹
消防司令長
宝塚市消防本部 藤原 裕二
消防司令長
宝塚市消防本部 堀下 智裕
消防司令長
豊岡市消防本部 榎田 貴行
消防司令長
尼崎市消防局 松原 豊
消防司令長
姫路市消防局 森本 克也
消防司令長
西はりま消防本部 森本 敏秀
消防司令長
神戸市消防局 安福 英俊
消防司令長
北はりま消防組合 和久井正人
消防司令長
淡路広域消防事務組合
消防本部 岩本 浩文
消防司令
三田市消防本部 植中 秀人
消防司令
神戸市消防局 岡田 信一
消防司令

西宮市消防局 川上 誠
消防司令
南但消防本部 坂本 龍二
消防司令
高砂市消防本部 早良 道彦
消防司令
尼崎市消防局 関山 敬一
消防司令
神戸市消防局 鶴田 敏浩
消防司令
西宮市消防局 豊島 直樹
消防司令
猪名川町消防本部 中猪 健一
消防司令
美方広域消防本部 中村 優紀
消防司令
神戸市消防局 那須 一夫
消防司令
神戸市消防局 成田 正道
消防司令
尼崎市消防局 野島 健治
消防司令
神戸市消防局 橋本 利夫
消防司令
神戸市消防局 花山 昇
消防司令
小野市消防本部 藤原 靖
消防司令
丹波篠山市消防本部 前中 繁男
消防司令
三木市消防本部 宮田 俊也
消防司令
西宮市消防局 山下 裕義
消防司令
丹波市消防本部 村上 弘恭
消防司令
淡路市消防団 上田 富弘
団長
宍粟市消防団 阿曾 和史
副団長
神戸市北消防団 池見 英弥
副団長
神戸町消防団 井上 昇三
副団長
多可町消防団 井上 貴之
副団長

加東市消防団 植田 竹吉
副団長
三木市消防団 大畑 忠士
副団長
淡路市消防団 小松 和夫
副団長
南あわじ市消防団 阪本 彰宏
副団長
朝来市消防団 佐々木貴幸
副団長
稲美町消防団 田口 稔洋
副団長
姫路市家島町消防団 寺本 宏之
副団長
朝来市消防団 中島 茂仁
副団長
丹波市消防団 前川 大介
副団長
加古川市消防団 前田 勝也
副団長
たつの市消防団 三木 壽
副団長
神戸市西消防団 森岡 和之
副団長
太子町消防団 森崎 原吉
副団長
淡路市消防団 六條 功一
副団長
明石市消防団 岩崎 弘
副団長
相生市消防団 岩崎 正博
副団長
神戸市灘消防団 上田 照夫
副団長
香美町消防団 上田 昌司
副団長
三田市消防団 大田 賢章
副団長
丹波市消防団 大野 昌也
副団長
高砂市消防団 小川 成人
副団長
尼崎市消防団 沖田 和夫
副団長
新温泉町消防団 小椋 満
副団長
姫路市網干消防団 加藤 崇昭
副団長

豊岡市城崎消防団 神谷 俊彰
分団長
赤穂市消防団 木村 晴紀
分団長
尼崎市消防団 草葉 大造
分団長
新温泉町消防団 楠 貴志
分団長
姫路市飾磨消防団 鯉塚 方伸
分団長
豊岡市豊岡消防団 小崎 哲男
分団長
養父市消防団 五島 尚行
分団長
神戸市中央消防団 後藤 安啓
分団長
姫路市姫路東消防団 小林 利亘
分団長
宝塚市消防団 島田 康治
分団長
洲本市消防団 杉本 光一
分団長
加古川市消防団 鈴木 章夫
分団長
西宮市消防団 田中 孝一
分団長
尼崎市消防団 田中 秀一
分団長
養父市消防団 田村 勝宏
分団長
芦屋市消防団 田村 学
分団長
西宮市消防団 中島 和也
分団長
神戸市長田消防団 西田 幸広
分団長
養父市消防団 西村 栄仁
分団長
加古川市消防団 西山 保夫
分団長
神戸市須磨消防団 野崎 壯敏
分団長
神戸市東灘消防団 橋詰 剛
分団長
高砂市消防団 長谷川喜之
分団長
小野市消防団 廣田 一弘
分団長

川西市消防団 福田 悟
分団長
尼崎市消防団 藤井 一弘
分団長
明石市消防団 藤原 武晴
分団長
洲本市消防団 不動 方義
分団長
神戸市垂水消防団 前田 武保
分団長
相生市消防団 松浦 誠
分団長
赤穂市消防団 丸尾日出男
分団長
豊岡市竹野消防団 門田 徳次
分団長
淡路市消防団 山口 吉郎
分団長
神戸市兵庫消防団 山下 哲生
分団長
香美町消防団 山田 貴広
分団長
上郡町消防団 山本 訓弘
分団長
姫路市飾磨消防団 川渕 博祥
副分団長
加東市消防団 西嶋 史昌
副分団長
赤穂市消防団 宮崎 晴夫
副分団長
新温泉町消防団 邑橋 智
副分団長
川西市消防団 井上 善明
団員
伊丹市消防団 田角 雅人
団員
猪名川町消防団 林 博彦
団員
猪名川町消防団 八瀬林 肇
団員
猪名川町消防団 八瀬林 昌雄
団員
○表彰状 一名
兵庫県企画県民部
防災企画局 局長 森田 克彦

阪神・淡路大震災二五年 「ひょうご安全の日」つどい開催!

震災二五年の節目となる令和二年一月十七日、震災の経験と教訓を地域や世代を超えて継承するため、「震災を風化させない」「忘れない」「伝える」「活かす」「備える」をテーマに「ひょうご安全の日」つどい」が開催されました。

震災から四半世紀が経過し、震災未経験世代が増加するなか、子ども・若者の参加を促し、未来へ伝えていく内容を盛り込み、様々なイベントが実施されました。当日は、①一・一七のつどい(阪神・淡路大震災二五年追悼式典)、②一・一七ひょうごメモリアルウォーク二〇二〇、③交流ひろば・交流ステージ・防災訓練等が実施され、一、八九〇人が参加しました。

でも明らかになった交通機関の途絶を想定し、来たるべき災害に備えるため、緊急時の避難路、救援路として整備された山手幹線等を歩いてゴールのHAT神戸をめざした。

特に、震災二五年にあたり新たに、ウォークに防災学習(講話)を組み込んだ「子ども・若者ウォーク」を実施し、被災地内の小中高校七〇〇人の参加を得た。

③ 交流ひろば・交流ステージ・防災訓練等
交流ひろばでは、関係機関やNPO、ボランティアグループ等による活動展示や炊き出し、子どもたちを対象にした防災体験、防災教室などを実施した。展示コーナーには、

は、八三団体(平年の三割増)が出展し、多様な情報を発信・交流した。

交流ステージでは、被災地のマスコットキャラクターによる防災クイズショーやミニライブ等に加え、新たにエンターテイメントや和太鼓ライブを実施した。また、県民参加による防災関係機関と連携した実践的な「防災訓練」を実施した。

他にも、毎月一七日は、人と防災未来センターは無料開放しており、メモリアルウォークや追悼式典参加者が来館した(見学者五、二〇〇人)。震災二五年の機会を捉えて実施した特別展示等を多くの方が観覧した。

内容

① 一・一七のつどいー阪神・淡路大震災二五年追悼式典ー

震災から二五年の追悼式典を秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席の下で開催し、阪神・淡路大震災で犠牲となられた方々への哀悼の誠を捧げるとともに、安全・安心な社会づくりに向けて歩む決意を内外に発信した。

② 一・一七ひょうごメモリアルウォーク二〇二〇

阪神・淡路大震災から復興した街並みや震災モニュメントを巡り、防災意識を高めるとともに、東日本大震災など

▶ 1.17のつどいー阪神・淡路大震災25年追悼式典ー ◀



兵庫県公館会場



HAT神戸会場

▶ 1.17ひょうごメモリアルウォーク2020 ◀



西15kmコース



東2kmコース



休憩所での防災強化県民運動ポスターコンクール作品展示



子ども・若者ウォーク防災講話

▶ 交流ひろば ◀



企業による体験車両(起震車)



関係団体による展示



学生団体による炊き出し



被災地支援(物販・観光PR)

▶ 防災訓練 ◀



ドローンを活用した映像配信訓練



要援護者避難誘導訓練



負傷者等搬送訓練



物資搬送訓練

▶ 人と防災未来センター施設見学 ◀



GISで見直す被災地図<西館1階>



117BOX・いいなの箱展<西館2階>

▶ 交流ステージ ◀



エンターテイメント(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)



和太鼓ライブ

※GIS(地理情報システム)・・・地理的位置を手がかりに、位置に関する情報データを視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術のこと

新型コロナウイルスの集団感染を防ぐために

感染拡大を防ぐために



国内では、散発的に小規模に複数の患者が発生している例がみられます。この段階では、濃厚接触者を中心に感染経路を追跡調査することにより感染拡大を防ぎます。

今重要なのは、今後の国内での感染の拡大を最小限に抑えるため、

小規模な患者の集団（クラスター）が次の集団を生み出すことの防止です。

<感染経路の特徴>

※「小規模患者クラスター」とは
感染経路が追えている数人から数十人規模の患者の集団のことです。

- ◆ これまでに国内で感染が明らかになった方のうちの8割の方は、他の人に感染させていません。
- ◆ 一方、スポーツジム、屋形船、ピュッフェスタイルの会食、雀荘、スキーのゲストハウス、密閉された仮設テントなどでは、一人の感染者が複数に感染させた事例が報告されています。

このように、集団感染の共通点は、特に、「換気が悪く」、「人が密に集まって過ごすような空間」、「不特定多数の人が接触するおそれが高い場所」です。

国民の皆さまへのお願い

- ◇ 換気が悪く、人が密に集まって過ごすような空間に集団で集まることを避けてください。
- ◇ イベントを開催する方は、風通しの悪い空間や、人が至近距離で会話する環境は、感染リスクが高いことから、その規模の大小にかかわらず、その開催の必要性について検討するとともに、開催する場合には、**風通しの悪い空間をなるべく作らない**など、イベントの実施方法を工夫してください。

これらの知見は、今後の疫学情報や研究により変わる可能性があります。現時点で最善と考えられる注意事項をまとめたものです。

厚生労働省では、クラスターが発生した自治体と連携して、クラスター発生の早期探知、専門家チームの派遣、データの収集分析と対応策の検討などを行っていくため、国内の感染症の専門家で構成される「クラスター対策班」を設置し、各地の支援に取り組んでいます。



令和2年3月1日版

チラシ

新型コロナウイルスの 集団感染を防ぐために

猛威を振るっている新型コロナウイルスですが、兵庫県や大阪府をはじめクラスター感染が各地で発生しています。厚生労働省より「新型コロナウイルスの集団感染を防ぐために」としてチラシが出されています。チラシや、他の情報についても厚生労働省ホームページ内に特設ページが設けられていますので、是非チェックしてみてください。

手洗いうがい等感染症対策を徹底するなどして、感染を予防しましょう。

厚生労働省 新型コロナウイルス

検索



がんばってます、女性消防団員

『全国消防団員意見発表会』

尼崎市消防団 あまがさきファイヤーフェアリーズ

清水亜由美

尼崎市消防団では、所属する女性消防団員を「あまがさきファイヤーフェアリーズ」と呼んでいて市民の皆さんに親しまれています。地域の分団での災害活動のみならず、防火・防災に関する広報活動や救命講習など様々な場面で活躍しています。

令和元年二月二〇日、消防庁において全国消防団員意見発表会が開催され、全国から一一名が参加し、私は兵庫県代表として出場し、団員の確保や活動する時間を捻出する難しさなどについて発表しました。

魅力あるまち尼崎を守るため団員の確保、特に女性団員を増やしていく難しさを入団当初から感じていました。広報を中心とした活動を続けていき、今では尼崎市消防団九〇六人中、女性団員はなんと五一人と、一〇年前の倍以上となり、兵庫県の女性団員の約一割を私たち尼崎市の女性団員が占めています。

多様なライフスタイルの団員一人ひとりが「個」の特長を活かしていきいき、楽しく団活する姿を見てもらい「楽しそうだな、やってみたいな」と感じてもらえるような団活を行っていれば入団促進につながると思っています。

私たちの「団活」が、日本の縮図と言われる兵庫県の中で、地域防災力向上のモデルとなるように、魅力的で実効のある団活を展開し市民が安全で安心して暮らせるまちづくりに寄与できるよう、これからも「団活」やっていきます！



蝶野さんの右後ろです



緊張の5分間

一般財団法人 自治体衛星通信機構のホームページ内の「消防チャンネル」に当日の動画が掲載されています。

消防チャンネル 意見発表会

検索





『安全で安心して暮らせるまちを目指して』

上郡町消防団

◆自然豊かな地域

上郡町は、兵庫県の南西部、岡山県との県境に位置する人口約一万五千人の町です。古くから山陽と山陰を結ぶ交通の要衝地として栄えてきました。町域の大半が山地と丘陵地で占められ、町の中央部には清流千種川が流れています。夏場のアユ釣り、ホタル観賞のスポットとしてよく知られており、豊富で綺麗な水源に恵まれた町であることから「水の郷百選」に認定されています。

◆消防団の構成

上郡町消防団は、町村合併に伴い、消防団を統一して昭和三〇年三月に発足しました。現在は、団本部と各地区を管轄する一九分団、そして町内四事業所による企業連携消防分団から構成され、松本団長率いる約五〇〇名の団員が消防団活動を行っています。火災やその他の自然災害への対応に加え、防火啓発活動や消火訓練の指導、地域行事の警備など、年間を通じて様々な活動に従事しています。団の主な装備として、消防ポンプ自動車三台、小型動力ポンプ付積載車一四台、活動車一台、司令車一台を有し、緊急時に即時対応できるよう機能の整備と強化を行っています。

【消防出初式】

消防団員の士気高揚と地域住民の防火・防災意識の向上を図ることを目的に、消防出初式を開催しています。

第一部式典では、団員による部隊行進や永年の活動に対する表彰式が行われ、第二部アトラクションでは一斉カラ放水が行われます。



「消防出初式（一斉放水）」

【水防・防災訓練】

地域防災力の向上を図るため、町では毎年、消防署や警察署等の関係機関と連携して風水害を想定した防災訓練を実施しています。消防団員も避難訓練や情報伝達訓練に参加し、消火訓練及び水防工法訓練など実際の災害を想定した訓練に積極的に取り組んでいます。

でいます。



「水防工法訓練」

【山林火災防御訓練】

町域の約七割が山林である上郡町は、山間部に家屋が点在している地域があることから、有事の際に被害が拡大することのないよう、実際の山林火災を想定した中継放水訓練を実施しています。

また、近隣市町の消防団との連携も強化しており、市町境界付近での林野火災において、関係消防団が緊密な連携を保ちながら、広域的に消火活動ができるよう、相互の連携及び協力体制の確立を図っています。



「合同林野火災防御訓練」

『南あわじ市消防団の活動について』

南あわじ市消防団

南あわじ市消防団は団員数が二一八八名（令和二年二月一日現在）で、地域住民の生命・財産を守るため、日々鍛錬し、また火災予防啓発にも力を入れ火災件数の減少にも取り組んでおります。

ここで、本市消防団の活動をいくつか紹介させていただきます。



【令和 2 年初出式の様子】

■消防団初出式

南あわじ市の消防力を披露し、地域住民の方に消防活動への理解や信頼を深めていただくため、毎年正月三ヶ日を



「中継放水訓練」

■消防操法大会

消防技術の向上と消防団員の士気・連携意識の高揚を図り、消防団活動の強化と市民の理解を深めるために、毎年実施しております。大会には、各方面隊予選会があり、そこで上位に入賞したチームが、市大会に出場できます。当市においては、ポンプ車の部において神代第一分団が、過去二度全国大会に出場しており、今年、一〇月一六日に千葉県で行われる全国消防操法大会の出場を目指して、日々鍛錬を行っています。

除く、第一日曜日に開催しております。本年は五日に消防車両三八台・団員一〇七〇名が参加しました。



【南あわじ市操法大会の様子】

■普通救命講習会

消防団員の自主救護能力を図ることを目的に、普通救命講習会を毎年開催しております。今年度は、令和元年九月一日に実施し、団員八五名が参加しました。また、普通救命講習の指導には、女性分団



【普通救命講習で指導する女性団員】

■総合防災訓練

近い将来発生が懸念される南海トラフ地震が発生したことを想定して、南あわじ市では、総合防災訓練を毎年実施しております。今年度については、十一月一七日に南淡中学校で開催されました。倒壊した家屋からのコンクリートカッター・チェーンソーを使用した救助訓練を行い、男性分団と連携して、倒壊家屋から火災が発生したことを想定した、『なでしこ分団』による消火訓練も実施しました。



【コンクリートカッターで障害物を切断中！】

である『なでしこ分団』の応急手当普及員の資格を持った一〇名が指導にあたりました。



【なでしこ分団倒壊家屋に向かって放水！】

■女性分団『なでしこ分団』による保育所訪問

毎年、火災予防啓発運動として、市内の保育所を訪問し、防火教室を行っております。今年度は、絵合わせカードを使って、楽しく保育園児たちと火災予防について学びました。



【絵合わせカードを使って楽しく勉強！】

（最後に）『ひょうご消防のつどい二〇二〇』について『ひょうご消防のつどい二〇二〇』が令和二年一〇月、南あわじ市で開始されます。南あわじ市には、鳴門海峡の特殊な地形が生み出す、『うずしお』、たまねぎ・淡路ピーフ・ハモ・三年トラフグなどの豊富な食材があります。開催市として、多数の消防関係者の皆様のご参加をお待ちしております。

わが町の団長さん

「市民に愛される 消防団を目指して」

小野市消防団

小林 直基



小野市は、東播磨地域のほぼ中央に位置し、古くからそばんと家庭用刃物の生産で順調な発展を遂げ、主要幹線

道路の整備や、新都市開発を契機に、東播磨の中心都市として一層の飛躍を遂げようとしています。

小林団長は、昭和六〇年四月に消防団員を拝命され、約三二年の長きにわたり地域の安全安心のため、積極的な訓練や現場活動を行ってまいりました。分団長、副団長を歴任し、令和元年一二月、前団長のご逝去により、第九代目消防団長に就任されました。

市内で旅行社を営み、人を樂しませるノウハウを武器に、消防団員を楽しくまた厳しく導きながら指導され、旅行社である強みを活かし、日本全国津々浦々を知りつくした団

長は、各地で発生する災害や、旅先での防火管理にも目を向け、避難の方法や地域に応じた消防団活動を模索する等、熱心に活動をされております。

また市内行事においても委員として参加され、小野市に大きく貢献される一方、消防団員への負担軽減に力を入れられ、消防団員からの信頼も厚く、自らの地域は自らが守るといふ郷土愛護の理念と市民のみなさんの生命、身体、財産をあらゆる災害から守るといふ崇高な使命を持ち、みなさんから信頼され、頼りにされる消防団となるべく、日ごろの訓練に励み、今後益々複雑多様化する災害に対応す

べく、その辣腕に期待してまいります。

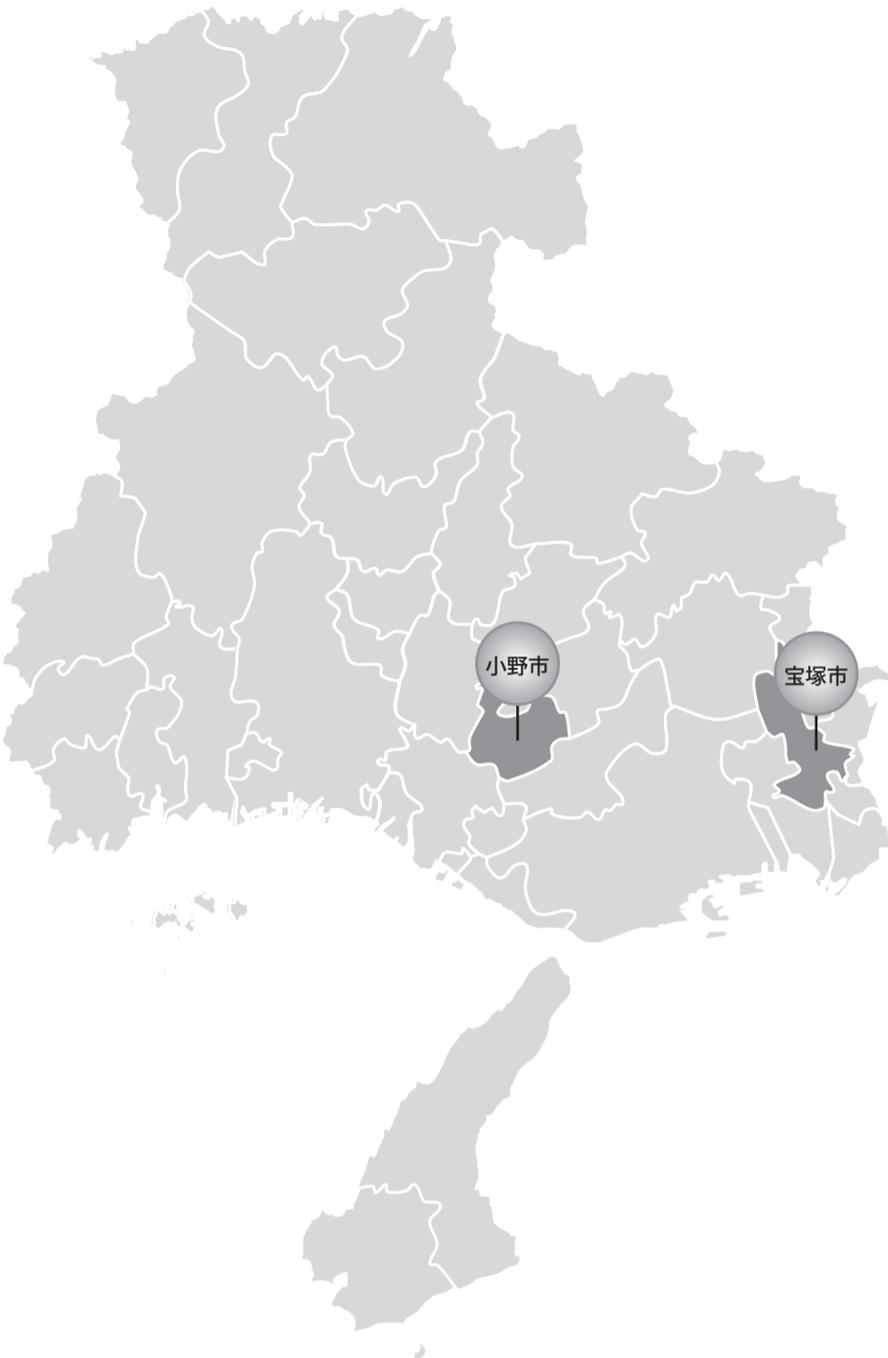
「ONE TEAM」

宝塚市消防団

辰家 宏弥



宝塚市は、県南東部に位置し、市域は南北に細長く、住



宅地が広がる南部市街地と、豊かな自然に囲まれた北部農村地域に分かれています。宝塚では明治半ば頃から温泉開発が進み、鉄道の開通ともあいまって、観光地として発展してきました。そして大正初期には宝塚歌劇が誕生し、「歌劇と湯のまち宝塚」の名は広く全国に知られるところ

です。宝塚市消防団は、昭和二九年四月、宝塚市の誕生とともに発足しました。昭和五〇年には、南部市街地の常備消防力拡充に伴う消防団組織の改編を行い、現在は、自然を体験できる施設や観光農園、そして宝塚北サービスエリアを

管轄する北部農村地域を拠点として、一〇分団一八〇名で活動しています。

辰家団長は、昭和五五年に入団され、分団長、副団長を歴任し、令和元年一〇月一日、第九代団長として就任されました。

就任以降、消防操法大会、年末特別火警警戒出発式、そして消防出初式といった多くの来賓が集まる場において、元企業人の経験を活かして、堂々と訓示を述べられた姿はとも印象的でした。

今後は、災害対応のみならず、地域住民と昼間人口の減少といった、本市だけでなく全国の消防団が抱える課題に

われら若手消防団員

～消防団の魅力を伝える～

播磨町消防団 古宮分団
松原 健吾



私は、勤務先が近いということもあり、平成二五年に播磨町に引っ越してきました。その際に職場の先輩から声をかけていただいたことがきっかけで消防団に入団し、現在分団長を務めさせていただいています。

私の中で古宮といえば、昔ながらの漁村というイメージがあり、その中でうまくやれるのだろうかという不安が最初がありました。

しかし、いざ入団してみると、分団の先輩方はとても親切に指導してくださり、普段は和気あいあいと、出動の際には真剣にと、非常にメリハリのある充実した活動ができています。また、消防団での活動を通じて地域の方にも顔を覚えていただき、消防団活動以外の場でもいろいろと声をかけていただけるようになりました。現在では入団して本当によかったと感じています。

他の消防団でもそうかもしれませんが、現在、古宮分団では次の世代の団員の育成が課題となっています。報道等の影響で、近年消防団に対する風当たりも強くなっており、新たな団員の確保もなかなか難しい状況ではありますが、地域のために活動することの大切さと、活動の中で得られる物のすばらしさを皆さんに理解していただくことで解決するしかないと思います。

これからも地域のための活動はもちろんですが、消防団の大切さと魅力が伝えられるような活動にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。



対しても手腕を振るっていた
だき、元ラグーマンとして、
「ONE TEAM」の精神
で地域防災の中核として活躍
されることを祈念いたします。

地域のお知らせ

神戸市垂水区

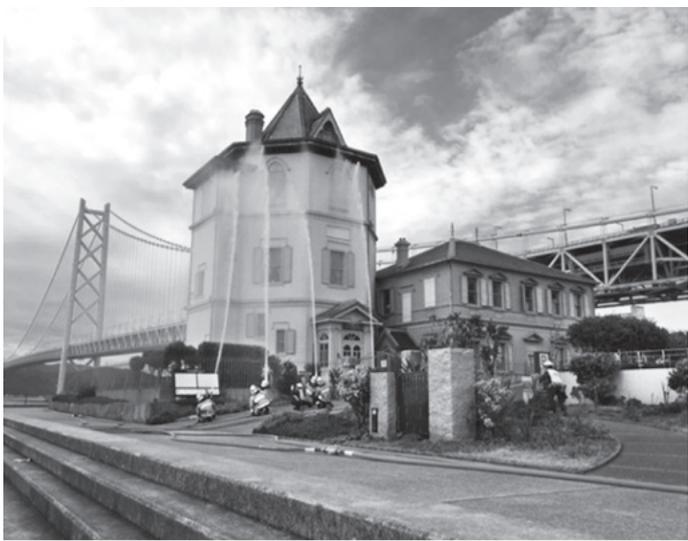
震災二五年、新たな決意

神戸市垂水区は、神戸市の西端に位置しており、海と山に囲まれた、風光明媚で瀬戸内特有の温暖な地域です。かつては塩屋から東垂水の間に複数の滝があったことに由来して、万葉集で「石ばしる垂水の上のさわらびの萌え出づる春になりけるかも」（志貴皇子）と詠まれているように、古から地名が語り継がれており、下畑街道など西国の玄関口としての歴史もあります。現在は、三宮や大阪の都心部のベットタウンとして、また、世界最長のつり橋「明石海峡大橋」や県下最大の前方後円墳「五色塚古墳」、アウトレットモール「マリニピア神戸」や「アジュール舞子

海水浴場」など、観光・レクリエーションゾーンとしての多種多様な魅力もあわせもつ街です。

垂水区の人口は神戸市のなかでも二番目に多く、特に六五歳以上の人口については市内の中でも多いことから救急需要が多く、防災面においても高齢化に対応していくことが課題となっています。

その垂水区を管轄しているのが垂水消防団（九分団一七〇名）で、災害現場活動や警戒パトロールはもとより、地域団体への防災訓練や市民を対象とした救急講習の指導を行っているほか、地域の伝統行事の活動支援など、地域の安全・安心のために、日々活



文化財防火デーの訓練風景



消防団積載車

動しています。

そして、この消防団活動の支えとなっているのが、各分団に配置された消防団積載車です。合計八台ある中の六台が長年の使用により更新が必要となり、団員間で検討を重ねた結果、神戸市初のワゴン車タイプの積載車として二〇一八年一月に更新することができました。

このワゴン車タイプの利点は、従来の積載車に比べ、乗車定員数（九人）が多く、資機材の室内保管により防犯や悪天候等からの保護が強化されておられ、より安全で活動しやすい車両に進化している点です。

この新しく更新された積載車を有効活用し、阪神淡路大震災から二五年の節目となる令和二年、改めて「安全で安心に暮らせるまち垂水」を目指し、団員全員が決意を新たに、さらなる地域防災力の強化にむけて努力していく所存です。

日本のへそ西脇市

西脇市

西脇市は兵庫県のほぼ中央部、東経一三五度と北緯三五度が交差する「日本列島の中心・日本のへそ」に位置しています。実は「日本の『へそ』・『中心』・『真ん中』」等を標榜する市町村は全国各地に存在しています。来訪者から「日本のへそに行った証しが欲しい」との声が多く寄せられたことから、西脇市では「日本のへそ到達証明書」（一枚一〇〇円）を発行しており、西脇市観光協会事務局道の駅ほかで取り扱っています。旅の思い出、記念にぜひお買い求めください。

○西脇市の地場産業「播州織」

二〇〇年以上の伝統を有する西脇市の地場産業に「播州織」があります。糸を先に染め、染め上った糸で柄を織る「先染織物」が特徴で、先染の経糸と緯糸の重なりが豊かな色彩を作り出し、シャツやハンカチなど様々な製品に加工されています。また近年は「西脇ファッション都市構想」として、ファッションデザイナーの育成や播州織独自のオリジナリティーの高い製品づくりの強化に取り組んでいます。



播州織

○軍師官兵衛ゆかりのまち

黒田官兵衛は、戦国時代に活躍した武将で、豊臣秀吉の天下統一を支えた稀代の軍師としてその名が知られています。この黒田官兵衛の生まれました西脇市黒田庄町黒田であるという説が地元では古くから伝えられています。同地にある莊嚴寺には、本黒田家略系図が所蔵・展示されており、持仏堂には歴代城主の位牌も安置されています。また、黒田庄町岡にある兵主神社は、戦国時代、秀吉の三木城攻めの際に、臣下の官兵衛が戦勝祈願のため灯明田を献納し、その際の奉納金によって天正一九（一五九一）年に拝殿が改築されたと伝えられています。茅葺入母屋造の長床式で安土桃山時代の建築様式をとどめた全国的に貴重なもので、兵庫県の指定文化財となっています。



兵主神社

○西脇市のイベント

・へそまつり・織物まつり

八月下旬に二日間にわたって開催される西脇市最大の夏イベントです。日本へそ公園や総合市民センターを会場に、

歌や踊り、ファッションショー等のステージイベントが開催され、各日の最後には夏の夜空を彩る花火が打ち上げられます。



播州織ファッションショー「へそコレ」



ミュージックフェスタ



秋祭り

・秋祭り

毎年一〇月に西脇市各地で秋祭りが開催されていますが、前述の兵主神社もそのうちの一つです。氏子の各地区から布団屋台が練り出すほか、子供奉納相撲や、大名行列を模した「レッキェイ」という伝統行事が披露され、華やかに行われます。

・日本のへそ西脇市午線マラソン大会

毎年一二月に開催されており、日本陸連公認コースのハーフマラソンなど様々な部門があり、県内外から多くのランナーが参加しています。

編集後記

日増しに暖かさを感じられるようになりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今月号では、日本消防協会定例表彰、令和元年度消防功労者消防庁長官表彰について掲載しております。表彰受章者の皆様、誠にありがとうございます。

さて、新型コロナウイルスが猛威を振るっている昨今、その影響が各地へ広がってきておりますが、手洗いやがいの徹底と、免疫力アップに努めていただき、健康にお気を付けてお過ごしください。

今月号で令和元年度の兵庫消防は最終号となりました。来年度は紙面の充実と併せて、今年度より立ち上げました、兵庫県消防協会のフェイスブックでの発信にも努めて参りたいと思います。今後とも「兵庫消防」のご愛読のほどよろしくお願ひします。

Facebookページ
アクセスは
こちらから

